

千葉地域の農業の振興

千葉農業事務所改良普及課

地域農業を支える多様な担い手の育成・確保

- 1 新規就農者等の営農技術向上と就農定着
【農業経営体育成セミナー受講者 20 名、青年農業者等スキルアップ研修受講者 19 名】
・新規就農者の定着数（セミナー修了者数）：9 名→12 名
・認定農業者数：6 名→10 名
- 2 地域で活躍する女性農業者の育成とパートナーシップ型農業経営の推進
【管内若手女性農業者 54 名、ちば地区女性農業者ネットワーク会員 26 名、家族経営協定締結意向農家 9 戸】
・若手女性農業者のセミナー等修了者数：2 名→15 名
・家族経営協定締結数：30 戸→33 戸

持続性のある園芸産地づくり

- 3 秋冬にんじんを核とした園芸産地の維持
【JA千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会人参部会 57 戸、JA千葉みらい土気地区出荷組合連合会人参部会 16 戸】
・販売金額（東部・土気）：1.4 億円→1.7 億円、0.5 億円→0.6 億円
・出荷量（東部・土気）：1,590t→1,600 t、686t→690 t
・作付面積が 150 a 以上の担い手の数（東部+土気）7 戸→8 戸
- 4 都市化の著しい地区での春夏にんじん産地の維持
【JA千葉みらい幕張地区出荷組合連合会人参部会 17 戸、JA千葉みらい習志野市園芸部人参部会 17 戸】
・春夏にんじん出荷量：784t→977t
・春夏にんじん販売額：0.97 億円→1.17 億円
・担い手の平均面積：74.1a→80a
- 5 都市地域条件を生かしたいちご経営体の育成
【千葉市いちご経営体 22 経営体】
・所得 550 万円以上の経営体数：6 経営体→7 経営体
- 6 だいこんの産地強化と地域をリードする経営体の育成
【JA市原市姉崎蔬菜組合 14 戸】
・出荷量：112 万ケース（1 ケース 10kg）11,200t→140 万ケース（1 ケース 10kg）14,000t
・販売額：9.8 億円→11.2 億円
- 7 温暖化対策と改植促進によるなし産地の維持
【市原市農業振興協会果樹部梨部会 67 戸】
・温暖化に対応した栽培管理方法導入した生産者数：23 戸→28 戸
・主要な担い手の栽培面積：17.1ha→17.8ha



JA千葉みらい にんじん新規栽培者研修

- 8 中核的生産者の規模拡大による春夏にんじん産地の維持
【JA八千代市人参部会 26 戸（うち 11 戸は研究部所属）】
・販売額：0.82 億円→1.03 億円
・出荷量：598 t→950 t
・研究部の平均栽培面積：69.7a→79.5a
- 9 重要な担い手を核としたなし産地の維持
【八千代市梨業組合 54 戸、主要な担い手 26 名（研究部 19 名、研究部OB 7 名）、若手女性農業者 8 名】
・主要な担い手による栽培面積：31.5ha→31.6ha
・規模拡大農家戸数 1 戸→2 戸
- 10 経営改善に取り組む花き経営体の育成
【大規模施設花き経営体 8 戸（千葉市 4 戸、市原市 2 戸、八千代市 2 戸）】
・販売金額 1,500 万円以上の花き経営体数：5 戸→6 戸

農業基盤を守る地域営農の仕組みづくりと経営体の育成

- 11 豊水稲経営体の経営安定化による地域水田の保全
【千葉市内水稲経営体 5 経営体】
・水稲経営面積：138ha→140ha
・主食用以外の米の作付面積：54.0ha→56.0ha
- 12 豊水稲経営体の規模拡大と営農組織による農地維持
【市原市の水稲主業経営体 21 戸、市原市内の土地改良区等】
・水稲経営面積：554ha→570ha
・集落営農法人の設立組織数：3 組織→3 組織
- 13 豊集落営農組織の育成と営農体制の強化
【八千代市水稲主業経営体 7 経営体、八千代市飼料用米生産・利用協議会のうちWCS用稲や飼料用米を生産する経営 7 経営体】
・八千代市水稲主業経営体の水稲経営面積：155.4a→160.4a
・低コスト・省力化技術（乾田直は、プール育苗等）の導入数：2 経営体→4 経営体

経営改善による畜産経営体の体質強化

- 14 豊規模拡大や経営改善による畜産経営の安定化
【経営改善に意欲がある畜産経営体 29 戸（千葉市 cow 飼う会 9 戸、市原市ホルスタイン改良同志会 7 戸、市原養豚研究会 7 戸、八千代市酪農経営体 6 戸）】
・経営改善実践農家：7 戸→8 戸
・新たな地域内飼料生産利用面積（WCS 用稲、高栄養・高収量作物）：7.4ha→9.0ha